

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田3-3-10梅田ビル4F
株式会社JTBコミュニケーションデザイン
ミーティング&コンベンション事業部内
FAX: 06-6456-4105
発行責任者 斉藤 政彦

題字 皿井 進筆

東海地方会会長 就任ご挨拶

日本産業衛生学会 東海地方会会長に就任して

大同特殊鋼(株) 統括産業医 斉藤 政彦



このたび、日本産業衛生学会の東海地方会長に就任いたしました。現場で活動する産業医が学会の地方会長という大役を仰せ付かったその責務の重さを痛感いたしております。

さて、東海地方は、ご存じのように、製造業を中心に多くの企業が立地し、多数の産業保健スタッフが活動しています。また、調査研究面でも多くの実績を残してきた歴史があります。まさに産業衛生のメッカといってよい地域です。最近、労働者を取り巻く環境が厳しさを増しており、メンタルヘルス不調をきたす人が後を絶ちません。一方で、化学物質によるガンの発生が報告され、その適正管理の必要性が改めて認識されるようになりました。これらを受け、労働安全衛生法が改正され、ストレスチェックの実施や、化学物質のリスクアセスメントが義務化されました。職場や仕事に起因する健康障害の防止がより重要な課題となっています。

学会の使命は、調査研究から得られたエビデンスを持って社会へ貢献することだと考えます。日本産業衛生学会の場合、仕事や職場環境が原因で発生する健康障害を防止するために、何をすればよいか、学術的に

明示することだと思います。そのためには地道な調査研究活動が大切ですが、大学など研究機関に所属する研究者、現場の産業保健スタッフ、いずれにも成果主義の波が押し寄せて、本業が多忙を極める中、学会活動へ注げる余力に限られる現状があります。そのような状況下、学会を通して情報を共有し、協力して効率よく調査研究を行う方向性が重要と考えます。東海地方会のまとまりの良さを持ってすれば可能と考えます。

最後に、2019年の第92回日本産業衛生学会学術総会の開催が東海地方会の担当となりました。その準備を滞りなく行うことが当面の地方会長としての役割と心得ます。皆様のご協力が是非とも必要です。御指導、御鞭撻、心よりお願い申し上げます。



東海地方会会長 退任ご挨拶

地方会長退任のご挨拶

愛知医科大学 医学部 衛生学講座 柴田 英治



2017年2月末で4年間務めた地方会長の職を退くことになりました。任期中の東海地方会員のみなさまのご協力に感謝します。東海地方会は全国の日本産業衛生学会の地方会の中でも活発な活動で、学会をリードしてきました。毎年2回の内外の産業保健関係者対象の研修会、秋の地方会学会、そして研究会活動がこの30年ほど前から続く年間行事でしたが、近年は部会活動の活発化に伴う行事もこれらの間に加わっています。職能別部会の登場によって各部会独自の活動が行われるとともに、産業医、産業看護職では専門家制度が設けられ、これに伴う研修と試験が行われています。大学も以前は医学部(学科)関係者が中心になっていましたが、看護学部(学科)で産業看護の教育・研究にあたる大学も増えています。私が東海地方会に関わるようになって以来、組織の分化が進んだことを実感します。こんな状況の中、視野を狭くして内向きに考えてしまうことは常に戒めなければなりません。産業衛生で発生する課題はどれをとっても各職能単独での取り組みでは限界があることは明らかです。また、研究についても多方面の専門家が

関わるほど価値の高い研究ができるというのが私がこれまでに得た教訓です。分化が進む一方で一層の交流がなければ、実践、研究ともに先細りになってしまうことが懸念されます。この分野の重要課題である小規模事業場で働く人々の健康と安全に常に目を光らせる視野と感性を保ちつつ、実践、研究ともにわが国をリードし続ける東海地方会であることを期待します。再来年の当地方会担当による学会開催も控える中、一会員としてこれからも全力で東海地方会及び日本産業衛生学会の発展に尽くす所存です。



開催報告

平成28年度日本産業衛生学会東海地方会学会開催のご報告

浜松医科大学 健康社会医学講座 尾島 俊之



学会長
尾島 俊之先生

「現場のデータを産業保健活動に活かす」をメインテーマとして、平成28年11月12日(土)に、浜松医科大学にて地方会学会を開催させていただきました。東海地方会では、前年度から学術研究推進委員会が発足し、産業保健現場における調査分析を推進したいという趣旨でこのようなテーマの設定をさせていただきました。

午前中は、メンタルヘルス、健康管理、有害曝露などさまざまなテーマで10演題の一般演題発表が行われました。

午後は、加部勇先生(古河電気工業株式会社 人事総務部衛生管理センター 統括産業医)による基調講演「職場巡視から始める産業保健活動-活かしたデータを捉える-」が行われました。他社においても重要と考えられる現場での課題について、大学と連携しながらしっかりと調査研究を行い、論文として公表されるなど、素晴らしい産業保健活動の講演でした。引



会場風景



地方会長挨拶
(柴田 英治先生)



左から尾島俊之先生、
巽 あさみ先生



加部 勇先生



守田 祐作先生



松浦 清恵先生



山本 誠先生

き続き、シンポジウムとして、守田祐作先生(新日鐵住金株式会社 名古屋製鐵所 安全環境防災部 産業医)による「データを使って進める喫煙対策」、松浦清恵先生(トヨタ自動車株式会社 安全健康推進部 保健師)による「『トヨタの問題解決』による要因解析とメンタルヘルス活動への活用」、山本誠先生(ヤマハ健康管理センター 産業医)による「特殊健診での教育効果、分散型事業所の健診事後措置等の活動評価」の3つの発表が行われ、現場のデータの活用、学会発表などに関して、活発な意見交換が行われました。

今学会での試みとして、立食形式による昼食交流会を開催しました。学会のひとつの意義として、会員相互の交流ができればと考えたためです。限られた時間でしたが、お顔は拝見しながらも、直接お話しする機会が無かった方々とお近づきになることができました。

全体として、交通不便な場所ではありましたが、総勢128人(スタッフ9人を含む)の参加が得られ、盛況のうちに終わることができました。最後に、不行き届きな点多々あったかと思いますが、当日、発表・座長・ご参加をしていただきました皆さんに、またしっかりと準備・運営をしてくださいましたスタッフの皆さんに御礼申し上げます。

日本産業看護学会第5回学術集会 開催報告

浜松医科大学 医学部 地域看護学講座 巽 あさみ



2016 年 11 月 5 日 (土)、6 日 (日) の 2 日間にわたり、「日本産業看護学会第 5 回学術集会」(学術集会長：浜松医科大学 巽あさみ、聖隷福祉事業団 鳥羽山睦子) が浜松市の

アクトシティ浜松コングレンスセンターにて開催されました。全国から 272 名の参加者を得て、盛会裡に終了しました。

近年の産業構造の変化の中で労働者は多様化する雇用形態や IT 化など、働き方をはじめとして不安定な状況にあります。このような社会経済状況の中で本学術集会はメインテーマを“人もこころもつなぐ架け橋の創出～産業看護における可能性の追求～”とし、産業看護職としてどのような健康支援ができるのか、その可能性について共に考えました。会長講演ではメインテーマである「人もこころもつなぐ」架け橋を創出できる」産業看護職を育成するために「大学における産業看護職の育成の視点から」と「現場力の強化と産業看護活動の質の向上」として、産業看護がチームで活動する中でコーディネート等を担っていくために基礎教育と卒後教育が連携し、各教育の体系化や標準化をすることが急務であることが強調されました。基調講演の尾島俊之氏(浜松医科大学)による「産業保健・看護におけるソーシャルキャピタル」では、職場におけるほどよい人間関係の重要性が示されました。

シンポジウムは 3 セッションで、産業看護職に期待する役割の視点から多職種・フロアを交えた活発な討議がなされました。ワークショップは「産業看護職が行う職場巡視」として作業環境測定の実験型実習であり、検知管式気体測定器を初めて手にする参加者は恐る恐るでしたが慣れると測定気体別の検知管の違いに興味を示していました。

特別集会として開催した産業看護学体系化委員会の活動は産業看護活動の専門性の確立、学問としての発展と成熟を目指し 20 年以上もの長きにわたり継続しているもので、今回は産業看護診断の開発をワー



会場風景

キンググループを進めるための記念すべきスタートとしてキックオフミーティングが開催されました。今後は多様な集団・組織で活用いただくためにバリエーション豊かな看護診断名(定義を含む)、診断指標、関連因子、リスク因子、看護目標、看護ケアなどの一連の看護診断体系化を目指すことになっています。

日本産業看護学会は今年、設立 5 年の節目を迎えました。本学会は「学問としての産業看護学の発展と高度な実践応力の開発により、質の高い産業看護のケアにつなげ、社会に貢献すること」を目的に設立されました。産業看護学は、昭和の初めに産声をあげたので、その歴史は 80 年余と看護学の中では新しい専門分野です。しかし、産業保健の中心課題がメンタルヘルス対策や作業関連疾患対策になっている現代にあっては、看護の専門性から、これらへの貢献の大きい産業看護学を基盤とする産業看護職の役割は、ますます重要になり、今後も期待が大きくなっていくといえます。



東海地方会産業医部会からのご報告

平成28年度 東海地方会産業医部会懇話会に参加して

日本郵政株式会社 東海健康管理センター静岡分室 産業医 足立 留美子



平成 28 年 12 月 17 日、中部大学名古屋キャンパスで開催されました平成 28 年度東海地方会産業医部会懇話会に参加いたしましたのでご報告させていただきます。

第 1 部では伊澤善史先生（ヤマハ発動機株式会社人事部安全健康推進グループ）から『**職域における発達障害対応をめぐる諸問題**』についてご講演いただきました。発達障害の従業員への労務管理の一環としての支援活動の内容や事例について、具体的にお話していただきました。その支援が労務管理の一環であること、つまり事例性を重視した対応の仕組みとなっていることについて興味深く拝聴しました。当事者、上司、人事担当者それぞれに対しての支援を 3 本柱とし、カウンセリング中心のフォローアップを行います。三者の共に安定した状態が支援のめざす姿であり、根気強いフォローが必要であるとのことでした。今後、産業保健の場ではこのような支援がますます重要になると感じました。



伊澤 善史先生

第 2 部では、会員活動報告として 3 名の先生方から身近なテーマについてお話をしました。

報告 1 では、窪田誠先生（三菱電機(株)静岡製作所）から『**海外外向者の健康管理**』というテーマでご発表いただきました。近年、日本における生産工場は、海外拠点のマザー工場として機能していることが多く、出張者も含めた海外赴任者の赴任中の健康管理も重要となってきています。定期的に海外拠点を訪問し医療や住環境等を確認した上で、出張者も含めた海外勤務者への健康管理を積極的に行っている様子を現地の写真も交えてご紹介いただきました。



窪田 誠先生



講演風景

報告 2 では、高城博先生（名古屋鉄道(株)名古屋診療所）から『**精神疾患と運転に関する考察（経験事例より）**』というテーマでご発表いただきました。最近注目されている話題でもあり、実際の様々な貴重な事例をご紹介頂き大変勉強になりました。その中で、「就労支援において、主治医と連携した上で、予見リスクを低減することが産業医の役割」という言葉が印象的でした。



高城 博先生

報告 3 では、渡邊美寿津先生（トヨタ自動車(株)元町工場健康管理室）から『**私の産業医活動エッセンス～大学教員の経験も踏まえて**』というテーマでご発表いただきました。大学での調査、研究、教育、講師や研究会等の事務局としての豊富なご経験をご話頂きました。また、そのご経験を踏まえ、産業医活動エッセンスとしてのキーワードとして「共感性、洞察力、公平性・客観性、選択の合理性と工夫、信頼」を挙げられました。このキーワードを胸に、私も今後の産業医活動に励んでいきたいと思いました。



渡邊 美寿津先生

喜びの声

学会功労賞を受賞して

岐阜大学 名誉教授 牧野茂徳

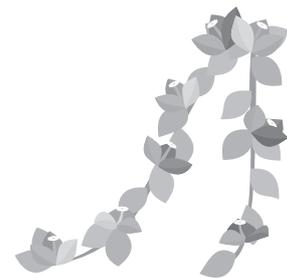


このたび、学会功労賞を受賞することとなり光栄に存じます。推薦をして下さった先生をはじめ、ご指導いただきました先生方に感謝申し上げます。

人生の最初の学会発表は東京で開催された第45回日本産業衛生学会で、恩師である宮田教授の指導によりデータをまとめ発表しました。大学を卒業した翌年でした。

私は昭和46年3月岐阜大学医学部医学科を卒業し、直ちに衛生学教室に入り、8月に文部教官助手を拝命しました。翌年、国立公衆衛生院で1年間公衆衛生を学ぶこととなり、他の職種の人達との合同講義や実習を行う機会がありました。公衆衛生を学ぶ中で母子保健の分野を研究しようと考えました。また、臨床研修の必要性を感じ、岐阜大学医学部附属病院、多治見市民病院でお世話になりました。昭和54年「周産期死亡率の地域格差に関する研究」で医学博士を授与され、昭和57年助教授を拝命しました。それから7年後に大きな転機が訪れ、平成元年JICAの長期専門家としてフィリピン労働安全衛生センターへ派遣され、金属中毒を担当し、1年2カ月間フィリピンに滞在しました。派遣に先だち中災防等で研修を受けました。帰国後の平成3年、岐阜大学から中災防に移り、産業保健に取り組むこととなりました。10年間で中災防で特殊健診と労働省からの委託業務をしました。特殊健診は鉛、有機溶剤、特定化学物質、騒音、振動、VDT等の健診、委託業務は

作業関連疾患、健康診断項目の検討、健診結果に基づく事業主の事後措置、生物学的モニタリング、ダイオキシン調査などでした。平成13年、新設された岐阜大学医学部看護学科地域看護学分野の教授を拝命し、産業保健を担当、平成17年に大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）が設置されマル合教授として論文作成の指導にあたりました。そして、平成18年度東海地方会学会を岐阜大学で開催し、学会長を務めました。また、岐阜産業保健推進センター（現、総合支援センター）の相談員として、現在に至っています。平成23年、岐阜大学を定年退職し今までの経験を生かして健診、検診業務にかかわっています。一昨年日本乳がん検診精度管理中央機構が実施する試験に合格し、検診マンモグラフィ読影医として、読影を行っています。働くことにより健康を損ねることのない社会、働くことが喜びとなる社会の実現を念じつつ、さらに、精進したいと思います。



学会奨励賞を受賞して

東海旅客鉄道株式会社 健康管理センター 所長 えん た かず ひこ 遠 田 和 彦



第90回日本産業衛生学会にて奨励賞をいただきました。過去にそうそうたる先生方が受賞された栄えある賞であることから、身が引き締まる思いです。このたび、地方会ニュースから機会を頂戴しましたので、ご報告させていただきます。

私は研究者というよりは実務者ですので、産業医実務経験を評価していただいたものと理解していますが、このような賞は私には縁のないものと思っていたので、推薦の声をかけていただいた際には大変驚きました。業績的にも年齢的にもどうかと思ったのですが、いざ業績をまとめてみると、産業現場で得られた健康管理関連の研究成果などがそれなりに出てきました。まさに塵も積もれば山となるという感じで、受賞に値する成果だったかどうかはともかく、業績をまとめる機会ができていただけでもよかったですと思いました。その後、受賞が決まったという通知をいただいた時には、正直な気持ちとしては嬉しいというより、ご指導いただいた方々への感謝の思いが主でした。

私は、産業医科大学を卒業後、神奈川県と福岡県で臨床研修を含めて3つの病院勤務を経験し、まだまだ臨床を経験したいという思いを強く持っている未熟な時期に、JR東海の静岡鉄道健診センターに専属産業医として着任することになりました。もともと千葉県出身で東海地方には縁もゆかりもなかったのですが、新たなご縁により、東海地方の明るいイメージに引かれて静岡県に着任しました。当時は右も左も分からないまま、気合だけで仕事をしていたような気がします。

鉄道会社の産業医ならではの業績という意味では、鉄道運転従事者の適正配置に関する身体基準作成に関わり、これを機に、公共の安全と労働者の就労機会確保のバランスの難しさを学びました。また、突然死対策として心電図所見から致死性不整脈の予備群をスクリーニングする方法を検討したBrugada症候群対策では、復職支援に関して、自ら作成した表が産業衛生学会や循環器学会等の複数学会による合同研究班作成のガイドラインに利用されるなど、それなりに成果が認められたようです。このほか、実務面では、社内健康管理部門の体制整備とメンタルヘルスプロジェクトチームの立ち上げに携わりましたが、これらの活動は、当然、いずれも私だけの努力ではなく、多くの理解者や協力者の支援を受けてのものです。これらの活動が評価されたのだとすれば、このたびの受賞はまさに多くの関係者の方々のおかげということになります。今後、これらの活動をさらに発展させていくことを誓って、多くの方々への感謝に代えさせていただきたいと思えます。東海地方会の皆様、今後とも、ご指導のほど宜しくお願いいたします。



会 員 の 声

私の産業衛生学研究と学会活動

三重大学大学院医学系研究科 環境分子医学分野 平 工 雄 介



三重大学大学院医学系研究科環境分子医学分野の平工（ひらく）雄介です。東海地方会ニュースに今回初めて寄稿します。私は大学院に入学以来、環境・産業化学物質による健康障害、特に発がんの

分子機構に関する実験研究を中心に行ってきました。最近では、アスベスト（石綿）、カーボンナノチューブ、インジウム化合物などの繊維・粒子状物質による呼吸器疾患や発がんの分子機構の解明とリスク評価に資するバイオマーカーの探索に関する研究を行っています。実験材料は培養細胞、動物組織、ヒト生体試料など多岐にわたります。環境・産業医学分野のフィールドと連携した分子疫学研究も行っています。基礎研究で得た知見を社会に還元して、有害因子による疾病のリスク評価や予防を実現出来るような産業衛生学を創りたいと考えています。

日本産業衛生学会には2006年に入会しました。それ以来、ほぼ毎年学会や東海地方会で研究成果を発表しています。東海地方会では2015年より理事を務めています。学会本部の運営に関しては、2011年から2014年まで編集委員会の副委員長、その後も引き続き編集委員として、和文誌「産業衛生学雑誌」と英文誌「Journal of Occupational Health」の編集業務に関わってきました。

近年では、大学の医学部で毒性学を研究する人材や研究の場が少なくなってきたと感じます。しかし、最近でも印刷工場における胆管がんや化学工場における膀胱がんなどの事例が明らかになっており、産業衛生学分野における基礎研究は将来起こりうる職業性疾患に対応する上でも重要であると考えます。研究内容に興味をお持ちの方や共同研究を希望される方がいらっしゃいましたら、いつでもお声掛け下さい。今後とも宜しく願い申し上げます。

新理事就任のご挨拶

名古屋市立大学大学院医学研究科 環境労働衛生学分野 佐 藤 博 貴



この度、日本産業衛生学会東海地方会理事を拝命いたしました名古屋市立大学の佐藤と申します。私は平成18年に産業医科大学を卒業し、臨床研修を経て平成20年よりブラザー工業(株)にて専属産業医を

務めました。在職中は、新型インフルエンザ対策や海外健康管理、化学物質管理など様々な産業保健上の課題について幅広く実務経験を積ませていただくことが出来ました。その中でも少量多品種の薬品類を扱う職場での適切なリスク管理のあり方に興味がわき、化学物質のリスク評価手法について学ぶため、平成25年に名古屋市立大学へ社会人大学院生として入学しました。入学後は主として、殺虫剤を扱う作業者の集団を対象とした健康管理や曝露評価に関する研究を通じ、低濃度の化学物質による健康影響のリスク評価につい

て学ばせていただきました。

その後、ご縁をいただき平成28年より助教として名古屋市立大学（環境労働衛生学）へ着任し、それまでの研究をさらに発展させるべく日々取り組んでいます。大学院生時代には主として機器分析を行っておりましたが、着任後は動物実験なども行い、慣れない教員業務と共に時間の早さばかりを感じております。実務の場からは少し遠のいてしまいましたが、大学で知見を深め、中小企業も含めた産業保健の現場へエビデンスをフィードバックできるようになることを当面の目標とし、今後とも前進していきたいと考えています。

地方会理事として経験もなく微力ではありますが、実務と学術の両面から産業保健全体の発展に貢献できるよう努力してまいりたいと存じます。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りましたら幸いです。どうぞよろしく願い申し上げます。

新理事就任のご挨拶

トヨタ自動車株式会社 安全健康推進部 保健師 松浦 清恵



この度、日本産業衛生学会東海地方会の理事を拝命し、また、このような挨拶の機会を与えて頂き、大変光栄に思います。せっかくの機会ですので、弊社の産業保健活動について紹介をさせていただきます。

弊社は、従業員数約73,000人に対して、産業医37名・精神科医8名（非常勤含む）、保健師62名、看護師88名の体制で、各工場・事業所の衛生管理者と連携をとりながら、相互啓発型の安全・健康文化の定着を方針に掲げて、日々産業保健活動を展開しております。

特に、健康方針では、「休務者低減」に向けた健康づくり活動の推進に重点を置き、特定保健指導等による生活習慣改善活動と、職場や人事機能と連携したメンタルヘルス疾患の未然防止・再発防止活動等を行っています。今後は、組織改正等による職場の変化点や海外赴任者の増加、従業員の加齢化等への課題に取り組んでいくことが重要となっています。加えて、私は、弊社の統括保健師をしておりますので、もう少しだけ保健師活動についても触れさせていただきますと、保

健師は、主に①工場・事業所に常駐（健康相談・健康教育・保健指導等）、②健康支援センター常駐（健康診断・保健指導等）、③海外支援担当（海外赴任者健康相談・医療巡回等）、④全社方針推進担当（方針企画・関係部署調整等）として配置されますが、それぞれの業務の特異性が高い中、キャリア採用も含め経験の浅い保健師も多く、また育児休職中の保健師をカバーするフレキシブルな対応も必要なため、人材育成が緊喫の課題となっています。社内では、導入教育や日々のOJTに加え、業務の標準化（標準書の作成）や研修会等の実施により人材育成をしておりますが、社外の研修会等で研鑽を積むことも大変重要だと思っています。

東海地方会の学会や研修会等は、大学や産業現場で先駆的な活動をされている先生方のご発表が多く、また、社外の様々な分野・職能でご活躍されている会員同士の交流の場にもなり、大変勉強になります。地方会理事として、学会活動を通じて弊社の保健師のみならず、地方会の産業看護職のスキル向上が図れるよう精一杯努めて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

新規加入のご挨拶

住友電装株式会社 保健師 南川 美央



この度、日本産業衛生学会東海地方会へ入会させていただきました南川と申します。

看護大学を卒業後、病院勤務を行い予防医学の分野に興味を持ち、昨年の春より現在の会社でお世話になっています。

弊社は主力を「ワイヤーハーネス」と呼ばれる自動車の各所に電流や電気信号を正確に伝える役割を担う「組電線（人間に例えると血管や神経に相当する部品）」を開発・設計、製造しています。

また、今年の12月に会社設立100周年を迎え、健康経営の取り組みを開始し会社理念である「社員一人ひとりの健康は活気ある企業の源である」と考え、産業保健スタッフ全員で健康管理活動に力を入れて取り組んでいます。

私が勤務する四日市製作所管轄地区は約3,600名の社員が従事され、年齢層の幅も広く、ライフスタイルも多様化し忙しいなか、自分自身の健康に目を向ける

時間が作れない現状が多々見受けられます。そこで、少しでも自分の「こころと身体」を大切にしてもらう意識をもっていただくために、どのようなかわり方をしていけばいいのか日々、試行錯誤し対応しています。

また、年間計画で社員を対象に健康教育（研修会）を開催し、講師を務めることは産業保健師の醍醐味のひとつでもあると感じつつ、これまで多人数を前にして研修を行った経験はなく、現在も毎回とても緊張し取り組んでいます。

合わせて教材資料を作成する時は、自分自身がその分野の知識を深めるいい機会であると捉え、意欲的に取り組み、大変貴重な時間であるという気持ちを忘れることなく、少しでも社員に「気づき・きっかけ」となる情報提供に務めています。

今後は積極的に研修会や学会へ出席し、自身の知識向上や他社の産業保健師と交流の場を増やし、日々の産業保健活動に活用していきたいと考えています。

どうぞ、よろしくお願い致します。

事務局から

平成29年度総会決議から

平成28年度事業報告

1. 総会を7月2日(土)に名古屋市で開催した。
2. 理事会を4回(7月2日、9月3日、12月17日、1月28日)開催した。
3. 平成28年度日本産業衛生学会東海地方会学会を開催した。
開催日:11月12日(土)9:30~16:40
会場:浜松医科大学 講義実習棟1階 特別講義室(浜松市)
メインテーマ:「現場のデータを産業保健活動に活かす」
参加者数:128名(会員:106名、非会員:22名)
一般演題10題
基調講演「職場巡視から始める産業保健活動ー活かしたデータを捉えるー」
講師:加部 勇(古河電気工業株式会社 人事総務部衛生管理センター 統括産業医)
シンポジウム:「各企業における活動事例」
①データを使って進める喫煙対策
守田 祐作(新日鐵住金株式会社 名古屋製鐵所 安全環境防災部 産業医)
②『トヨタの問題解決』による要因解析とメンタルヘルス活動への活用
松浦 清恵(トヨタ自動車株式会社 安全健康推進部 保健師)
③特殊健診での教育効果、分散型事業所の健診事後措置等の活動評価
山本 誠(ヤマハ健康管理センター 産業医)
4. 平成28年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならびに研修会を開催した。
開催日:7月2日(土)13:00~17:00
会場:中部大学名古屋キャンパス(名古屋市)
参加者数:80名(総会)、143名(研修会)
1. 就業規則の変更と職場復帰プログラムによる改善事例
榎野 誠(誠社会保険労務士事務所)

2. 「新職業性ストレス簡易調査票」を活用して
塚田 月美(パナソニック)
 3. 当社の職場環境改善施策~職場の活力向上プロジェクト~
杉藤 素子(JR東海)
 4. 職場・人事・産業保健スタッフ連携の継続的改善~心身対策ミーティングの紹介~
高崎 正子(東芝四日市)
 5. 産業医から主治医への情報提供により、治療が修正され、事例性の改善・解消が得られた二事例
吉田 契造(デンソー)
 6. 人事労務部門と産業保健スタッフの連携による効果的なメンタル休業者対応
秋山 ひろみ(東芝キャリア)
 7. EAPを利用した分散事業場での復職支援
山本 誠(ヤマハ)
5. 地方会四部会による活動が以下のように実施された。
- 【産業医部会】**
産業医部会懇話会
開催日:12月17日(土)13:30~17:00
会場:中部大学名古屋キャンパス(名古屋市)
参加者数:43名
特別講演「職域における発達障害対応をめぐる諸問題」
伊澤 善史(ヤマハ発動機株式会社 心理士)
会員活動報告・討論
報告1『海外出向者の健康管理』
窪田 誠(三菱電機(株)静岡製作所)
報告2『精神疾患と運転に関する考察(経験事例より)』
高城 博(名古屋鉄道(株)名古屋診療所)
報告3『私の産業医活動エッセンス~大学教員の経験も踏まえて~』
渡邊 美寿津(トヨタ自動車(株)元町工場 健康管理室)
- 【産業看護部会】**
・理事懇談会
開催日:6月26日、9月26日、2月9日(2月はメール会議)

・産業看護部会研修会

開催日：12月3日（土）10：00～16：00

会場：中部大学名古屋キャンパス（名古屋市）

参加者：40名

「研究のはじめ方 学会発表とは」

「研究のはじめ方ー日常業務の資料からー」

掛本 知里（東京有明医療大学）

「学会発表経験談」澤田真美（アドヴィックス）

「産業看護部会本部との懇談会」

「産業保健看護専門職制度の現在」

掛本 知里副部会長

「産業看護職のキャリアを考える」

パネルディスカッション&グループワーク

「開業保健師の立場から」

清水 高子（清水ヘルスケア）

「臨床看護から転職した立場から」

杉本 日出子（ジェイテクト）

「産業保健師オンリーの立場から」

山本 美幸（ブラザー工業）

【産業衛生技術部会】

東海産業衛生技術部会第8回特別企画

開催日：12月10日（土）13：00～16：30

会場：中部大学名古屋キャンパス（名古屋市）

参加者数：39名

特別講演「OHSMSの国際標準化に向けて
～ISO45001最新情報～」

斉藤 信吾（中央労働災害防止協会技術支援部兼
ISO規格推進室）

シンポジウム「産業保健における衛生管理者への期待」

衛生管理者の立場から

菅沼 要一郎（浜松ホトニクス）

産業医の立場から

中元 健吾（中元産業医・労働衛生コンサルタント事務所）

産業看護職の立場から

鈴木 琴美（企業所属保健師）

作業環境測定士の立場から

土屋 真知子（静岡県産業環境センター）

【産業歯科部会】

第11回研修会

開催日：11月15日（日）14：00～16：30

会場：リコー・エレメックス(株)恵那事業所（恵那市）

内容：工場見学と質疑応答

参加者：8名

6, 第29回産業保健スタッフのための研修会を開催した。

開催日：2月25日（土）13：00～16：30

会場：安保ホール（名古屋市）

参加者数：74名（会員：45名、非会員：29名）

教育講演

「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドラインのポイント」

河津 雄一郎（平和堂株式会社 統括産業医）

パネルディスカッション

テーマ：「両立支援に取り組む意義について考える」

パネリスト

産業医 高畑 真司（東海旅客鉄道株式会社健康管理センター）

産業医 山田 琢之（なごや労働衛生コンサルタント事務所）

看護職 塚田 月美（パナソニック株式会社株エ
コソリューションズ社）

人事労務 安田 英樹（アビームシステムズ株式会社）

指定発言

「頭頸部がんにおける歯科からの両立支援～治療スケジュールと仕事」

産業歯科医 間瀬 純治（めぐみ歯科歯科往診
担当部長）

7, 地方会内の研究会活動を以下のように実施した。

【職場ストレス研究会】

第89回職場ストレス研究会（合同開催：第58回産業精神衛生研究会）

開催日：2月11日（土）10：00～18：15

会場：名古屋国際会議場（名古屋市）

大会テーマ：「メンタルヘルスにおける若者への支援のために」

参加者：162名

一般演題

教育講演1「ポジティブ感情へのアプローチ」

松永 昌宏（愛知医大 衛生学）

教育講演2「発達障害の方への職場支援」

福田 真也（あつぎ心療クリニック 精神科医）

特別講演「若者への元気支援」

小林 章雄（愛知医大 名誉教授）

シンポジウム「若手医療職によるメンタルヘルス活動」

保健師によるこころの健康づくり対策～いきいき職場を目指して～

鳥居 宏香 (ブラザー工業(株)保健師)

大卒新入社員のストレス状態・ストレス対処能力(SOC)・職業性ストレス

成定 明彦 (三菱電機(株)中津川製作所 産業医)

許しと感謝のエクササイズの効果と今後の課題～新入職員を対象にしたプレテスト～

鈴木 寛之 (研精会 豊田西病院 看護師)

保健師による若手社員へのメンタルヘルス支援～外部EAP機関の立場から～

加藤 由佳 (㈱アドバンテッジリスクマネジメント名古屋 保健師)

過去9年間における精神疾患病欠者の推移と今後の課題

山本 誠 (ヤマハ(株)健康管理センター 産業医)

【振動障害研究会】

第30回振動障害研究会

開催日：2月18日(土) 13:00～16:00

会場：名古屋大学医学部保健学科(名古屋市)

参加者：20名

「手腕系振動障害の診断とISO基準」

宮下 和久 (和歌山県立医科大学 衛生学講座 教授)

「充電式チェーンソーへの取組み紹介」

坂口 孝啓 (㈱マキタ 開発技術本部技術研究部)

「防振手袋の機能開発の現状」

横田 和樹 (アトム株式会社 開発部基礎研究課)

8. 地方会代議員・地方会会長選挙ならびに本部理事候補者選挙を実施した。

9. 地方会ニュースを2回発行した。

第86号(7月5日)、第87号(平成29年1月1日)

10. 事務局の管理でUMINに設置したホームページを運営し、地方会関連行事や理事会の案内などを行った。(http://tosh-net.umin.jp/)

地方会理事会

平成28年度 第4回理事会

日時：平成29年1月28日(土) 10:00-12:00

場所：宝第一栄伏見中央店(2F・第一会議室)

【議題】

I. 前回理事会議事録(案)の確認

II. 協議事項

1) 平成28年度地方会会計報告(案) 2) 事務局の委託と来年度以降の運営について 3) その他

III. 報告事項

1) 本部理事会 2) 地方会事務局報告事項 3) 部会・研究会 4) 委員会 5) 愛知県医師会産業保健部会 6) 地方会ニュース 7) 第29回産業保健スタッフのための研修会の準備状況平成 8) 29年度総会ならびに研修会の準備状況 9) 平成29年度地方会学会の準備状況 10) 関連学会 11) その他

平成29年度第1回理事会

日時：平成29年7月1日(土) 10:00-12:00

場所：サーラシティ浜松(3F・多目的ホールスクエア)

【議題】

I. 前回理事会議事録(案)の確認

II. 協議事項

1) 新体制について 2) 事務局機能について 3) 平成29年度総会について 4) 平成28年度地方会活動報告について 5) 平成29年度活動計画について 6) 平成28年度地方会会計報告について 7) 平成29年度地方会予算案について 8) ホームページ運用方法について 9) 各部会、委員会、研究会の会計管理について 10) 理事会参加時における交通費について 11) 学術研究支援制度について 12) 選挙制度改革について 13) 第92回日本産業衛生学会学術総会について 14) その他

III. 報告事項

1) 本部理事会 2) 地方会事務局報告事項(会員状況) 3) 地方会活動方針検討委員会 4) 学術研究推進委員会 5) 編集委員会 6) 研究会企画委員会 7) 表彰制度委員会 8) 部会・研究会 9) 第29回産業保健スタッフのための研修会開催報告 10) 平成29年度総会ならびに研修会準備状況 11) 平成29年度地方会学会準備状況 12) 各県の活動報告 13) その他(愛知県医師会等) 14) 関連学会

会員の異動

(※は学生会員を示す)

【新入・再入会員】

愛知①荒木 由美 (全国土木建築国民健康保険組合 東海事務所) ②新井 孝典 (㈱なごや産業医事務所) ③押野 玲奈※ (名古屋大学大学院) ④川崎 由実 (中部電力㈱) ⑤都筑 直美 (旭硝子㈱) ⑥中畑 ひとみ⑦萩野 恵 (㈱名古屋銀行) ⑧名倉 匡子 (三井化学㈱) ⑨加藤 良美 (水谷内科小児科) ⑩川口 彰子 (名古屋市立大学大学院) ⑪加藤 善士※ (藤田保健衛生大学) ⑫八木 美津穂 (コニカミノルタ㈱) ⑬田根 香菜子 (日本郵政スタッフ㈱) ⑭山名 正人 (新日鐵住金㈱) ⑮木村 まなみ (住友理工㈱) ⑯佐野 宏明 (㈱デンソー) ⑰大矢 奈穂子※ (名古屋市立大学大学院) ⑱平野 淳 (豊田通商㈱) ⑲津下 圭太郎 (愛知県警察本部) ⑳梶原 孟仁※ (名古屋大学大学院) ㉑奥田 昌子 (三菱ケミカル㈱)㉒鈴木 まり (三菱重工)

三重①市川 周平 (三重大学大学院医学系研究科 地域医療学講座) ②北村 大 (三重大学病院 総合診療科) ③上田 菜緒 (㈱東芝ストレージ&デバイスソリューション社) ④中久保 理紗 (㈱東芝ストレージ&デバイスソリューション社) ⑤走出 美沙 (住友電装㈱) ⑥今石 美沙季 (富士電機㈱)

岐阜①加納 美緒 (岐阜県関保健所)

静岡①鈴木 美香 (聖隷健康サポートセンター Shizuoka) ②荻久保 貴史 (東芝キャリア㈱) ③福田 千鶴子 (ヤマハ発動機㈱) ④松下 佳代 (中部電力㈱) ⑤塩田 麻衣子 (ジャトコ㈱) ⑥山田 康秀 (浜松医科大学臨床腫瘍学) ⑦上田 規江※ (浜松医科大学大学院) ⑧稲土 博右 (聖隷健康サポートセンター Shizuoka) ⑨雑賀 俊夫 (静岡県東部健康福祉センター) ⑩新坂 真理 (東芝テック㈱静岡事業所 (三島・大仁)) ⑪長谷川 陽子 (順天堂大学医学部附属静岡病院)

【転入会員】

愛知①大村 信正 (医療法人光生会 光生会病院) 関東より②韓 順子 (愛知淑徳大学) 近畿より③横山 麻衣 (三菱ケミカル㈱) 九州より④村上 瀬梨 (東海旅客鉄道㈱) 関東より

岐阜①秋田 浩貴 (イビデン㈱) 関東より

静岡①堤 いづみ (住友ベークライト㈱) 関東より②高橋 一平 (医療法人社団 リラ溝口病院) 東北より

【退会会員】

愛知①山崎 琴恵②今枝 敏彦 (金城学院大学生生活環境学部) ③河村 孝彦 (中部労災病院健康診断センター) ④杉浦 真理子 (第一クリニック) ⑤谷脇 祐子 (藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教室) ⑥廣田 直敷 (健康支援センターウエルポ) ⑦藤永 恵里子 (㈱メイエレック) ⑧山本 克英 (メンタルサポートオフィスアガペ) ⑨山本 友子⑩岩尾 聡士 (藤田保健衛生大学医学部地域老年科) ⑪田中 澄子 (東京海上日動メディカルサービス㈱) ⑫蜂須賀 智弘 (㈱マキタ) ⑬服部 泰子 (服部医院) ⑭八木 佳子 (ファイザー・ファーマ㈱) ⑮箭野 育子 (椋山女学園大学看護学部) ⑯岩崎 登 (トヨタ自動車㈱) ⑰小栗 太一 (名古屋通信病院) ⑱坂本 龍雄 (中京大学スポーツ科学部スポーツ健康科学科) ⑲阿部 美和 (トヨタ車体㈱) ⑳浅岡 剛 (浅岡歯科) ㉑三浦 理恵 (愛知医科大学医学部衛生学講座) ㉒長野 亜希子 (日東電工㈱) ㉓今川 良枝 (花王㈱) ㉔長谷川 真美 (愛知医科大学看護学部) ㉕森田 延栄 (ひだまりの郷 たけとよ) ㉖長屋 美代子 (㈱スズケン) ㉗永島 めぐみ (㈱ティラド) ㉘笠原 幸恵 (藤田保健衛生大学看護専門学校) ㉙横山 絵美 (名古屋銀行) ㉚早稲田 ひとみ (㈱NTT ドコモ東海支社) ㉛伊藤 摂美 (矢崎総業㈱) ㉜加藤 善士※ (藤田保健衛生大学大学院) ㉝金森 史枝※ (名古屋大学大学院) ㉞足立 拓史※ (名古屋大学大学院) ㉟長谷川 まり※ (名古屋大学大学院) ㊱大塚 智美※ (名古屋大学大学院) ㊲梶原 孟仁※ (名古屋大学大学院) ㊳押野 玲奈※ (名古屋大学大学院) ㊴李 香※ (名古屋大学大学院)

三重①近藤 育夫 (済生会松阪総合病院) ②橋本 峰子 (KKC 近畿健康管理センター) ③三浦 美香 (住友電装㈱)

岐阜①古橋 貞二郎 (三菱電機㈱) ②岡本 祥成 (デバ製薬㈱) ③山本 真由美 (岐阜大学) ④小川 真緒 (イビデン㈱)

静岡①舟津 碧 (国立大学法人静岡大学 浜松キャンパス) ②小川 和子 (東芝ライテック㈱) ③勝俣 隆二 (静岡家庭裁判所) ④長谷川 里美 (富士フィルム㈱) ⑤池田 佳名子 (聖隷予防検診センター) ⑥日内地 栄子 (聖隷健康診断センター) ⑦鈴木 真弓 (静岡大学保健センター 浜松支援室) ⑧兼子 陽子 (聖隷健康サポートセンター Shizuoka) ⑨田中 國義 (浜松医療センター)

【転出会員】

愛知①宮尾 克 (名古屋大学情報科学研究科) 関東へ
②山田 泰行 (名古屋市立大学大学院医学研究科
環境保健学分野) 関東へ③鳥居 啓三 (㈱豊田自
動織機) 関東へ④吉田 彩夏 (中部労災病院) 九
州へ

三重①井上 智博 (関東へ) ②鈴木 章裕 (松阪中央総
合病院) 近畿へ

岐阜①橋口 真奈 近畿へ

静岡①坂本 和志 (浜松労災病院) 東北へ②竹下 浩
(矢崎部品㈱) 北海道へ③木村 公紀 (東海旅客
鉄道㈱) 九州へ

【地方会内異動】

愛知→岐阜①庄司 直人 (朝日大学保健医療学部)

岐阜→愛知①成定 明彦 (愛知医科大学産業保健科学
センター)

三重→愛知①杉野 美由紀 (トヨタ自動車㈱) ②松木
理恵 (富士通株式会社)

静岡→愛知①齊藤 誠 (愛知医療学院短期大学)

これからの行事予定

平成29年度地方会学会

日程：平成29年11月11日 (土)

会場：名古屋市立大学 医学研究科・医学部研究棟
11階 講義室

第27回日本産業衛生学会全国協議会

日時：平成29年11月23日 (木) ~ 11月25日 (土)

場所：高知県立県民文化ホール

国際混合研究法学会 (MMIRA) アジア地域会議 兼 第3回日本混合研究法学会年次大会

会期：平成29年8月4日 (金) ~6日 (日)

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス

第21回国際疫学会総会 (WCE 2017)

会期：平成29年8月19日 (土) ~22日 (火)

会場：ソニックシティ (さいたま市)

第76回 日本公衆衛生学会総会

会期：平成29年10月31日 (火) ~11月2日 (木)

会場：かごしま県民交流センター、宝山ホール、歴
史資料センター黎明館

第25回日本産業ストレス学会

会期：平成29年12月8日 (金) ~9日 (土)

会場：グランシップ 中ホール 大地 (静岡)

産業保健スタッフのための研修会

日時：平成30年1月27日 (土) 13:00 ~16:30

場所：安保ホール (名古屋駅より徒歩3分)

テーマ：海外勤務者の健康管理

編集後記

今年1月よりアメリカで新政権が発足し、春先からはヨーロッパにおいて大統領選挙や総選挙が実施されており、世界の社会情勢は大きな変化を迎えています。産業保健に関しても、ストレスチェックや化学物質管理など、取り組むべき課題及びその内容は日々変化しています。しかしながら、『働く人の健康確保』の考えが変わることはありません。新たな課題や変化にも柔軟に対応できるよう、日々研鑽を積んでいきたいと思っています。

浜松ホトニクス株式会社 菅沼要一郎

東海地方会ニュース

編集委員長：西谷 直子 (椋山女子学園大学)

副編集委員長：池田友紀子 (キヤノン)

編集委員：赤津 順一 (日本予防医学協会)

榎原 毅 (名古屋市立大学)

河南 文子 (富士電機)

後藤 由紀 (四日市看護医療大学)

榊原 洋子 (愛知教育大学)

菅沼要一郎 (浜松ホトニクス)

城 憲秀 (中部大学)

守田 祐作 (新日鐵住金)

山本 誠 (ヤマハ)

東海地方会事務局

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-10梅田ビル4F
株式会社JTBコミュニケーションデザイン
ミーティング&コンベンション事業部内
FAX:06-6456-4105 E-mail:jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本

富士ゼロックスサービスリンク株式会社
TEL: (052) 412-1461 FAX: (052) 412-4149